

下府中地区



【地区の自然環境概要】

下府中地区は、川及び街の要素を持つ地区です。

南側には JR 鴨宮駅、周辺には住宅地や大型商業施設があり、市街地や住宅地を好む動植物の生育・生息の場となっています。

北部や北西部には住宅地の中にも緑が多く田畑も各地に見られ、隣接する上府中地区及び豊川地区と連続する水田や農耕地の影響も受け、田園環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。

西側は酒匂川に面しており、河川や河川敷などの水辺環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。



【地区で見られる動植物】

市街地の中にある緑は動植物にとっての大切な生育・生息の場です。また、河川などの水辺環境を利用する動植物が見られます。

- 河川や草地、水田が広がる水辺環境があり、エビモやササバモ等の植物、イカルチドリやカイツブリ、ケリ、セッカ等の鳥類などの水辺環境を利用する動植物や、クルマバッタ等の草地を利用する昆虫類などが確認されています。また、市の鳥であるコアジサシ（絶滅危惧種）などの希少な鳥類も確認されています。¹
- ニホンヤモリなどの緑の多い住宅地を利用する昆虫類なども確認されています。²
- 酒匂川では、ウグイやボウズハゼなど流れの速い溪流環境に生息する魚類のほか、緩い流れを好むコイやタモロコ等の魚類も生息しています。また、外来種であるアメリカザリガニも確認されています。³



ケリ



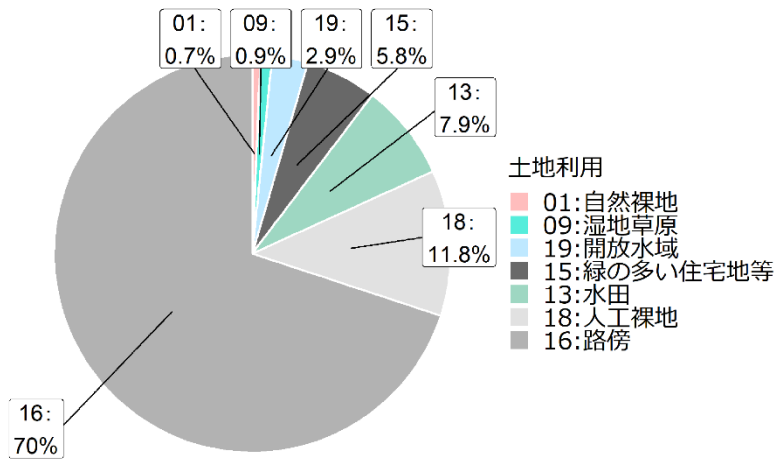
コアジサシ

¹ 参考：平成 29 年度 小田原市自然環境等現況調査委託業務 文献調査結果

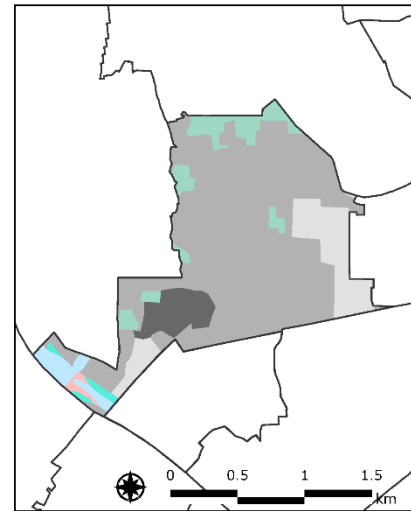
² 参考：平成 29 年度 小田原市自然環境等現況調査委託業務 文献調査結果

³ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

- 植生図をもとに作成された土地利用を見ると、路傍及び人工裸地で約 8 割と広範囲を占めています。北部や西部の一部では水田が見られ、西部では緑の多い住宅地等が広がっています。酒匂川周辺は、開放水域や湿地草原、自然裸地などの水辺環境が見られ、土地利用の約 0.5 割を占めています。⁴



下府中地区の土地利用割合



下府中地区の土地利用

【暮らしと自然のつながり（生態系サービス）】

身近にある緑や水源など、日々の生活の中で自然環境からの恩恵を受けています。

～文化的つながり～

- **神社・寺院**：神社や寺院が複数あります。社寺林は、生活の身近にある緑として住環境の向上や心の安らぎに寄与します。また、一般的に神社・寺院の境内は、こどもの遊び場としても役立ってきました。
- **その他の資源**：本地区の東西ほぼ中央には「酒匂堰」があります。過酷な労働に加え、天災など種々の要因による凶作の不安に脅える状態が続いていましたが、戦後になり農業基盤の改善が急速に進められました。酒匂川以東の水田を潤す「酒匂堰」は、酒匂川左岸土地改良区によって昭和 27 年（1952 年）に着手、満 7 ヶ年を費やし完成したものです。⁵
- **景観スポット**：小田原厚木道路のトンネルを出て、曲がりながら続く道の先に伊豆・箱根・富士と足柄平野が広がった風景は、小田原の原風景にもなっています。⁶

【地区で見られる特徴的な自然】

鳥獣保護区や天然記念物等に指定されるなど、大切に守り残していきたい自然環境が存在しています。

- **鳥獣保護区**：「酒匂川」は、希少鳥獣生息地（環境省レッドリストまたは神奈川県レッドデータ生物調査報告書において絶滅危惧が高いランクにある鳥獣の生息地であって、これらの鳥獣の保護上必要な地域）として、鳥獣の捕獲を禁止し、その生息環境を適切に保全しようとする区域として、神奈川県鳥獣保護区に指定されています。

⁴ 出典：日本全国標準土地利用メッシュデータ（国立環境研究所）

⁵ 出典：小田原市 HP 小田原デジタルアーカイブ <https://www.city.odawara.kanagawa.jp/darc/item/197/>

⁶ 出典：小田原ふるさとの原風景百選（小田原市環境部環境政策課，平成 19 年（2007 年））

- **巨樹・巨木林**：「春光院」「加茂神社」に生育する次表の樹木は、環境省が実施する自然環境保全基礎調査の巨樹・巨木林調査⁷で、保全すべき巨樹・巨木林に選定されています。

巨樹・巨木林概要

| 所在地 | 樹種 | 樹高(m) | 樹幹(cm) | 調査年 |
|------|------|-------|--------|--------------|
| 春光院 | イチヨウ | 17 | 430 | 平成12年(2000年) |
| 加茂神社 | ケヤキ | 16 | 365 | 平成12年(2000年) |
| | ケヤキ | 17 | 445 | 平成12年(2000年) |
| | ムクノキ | 16 | 370 | - |
| | イチヨウ | 17 | 310 | 平成12年(2000年) |

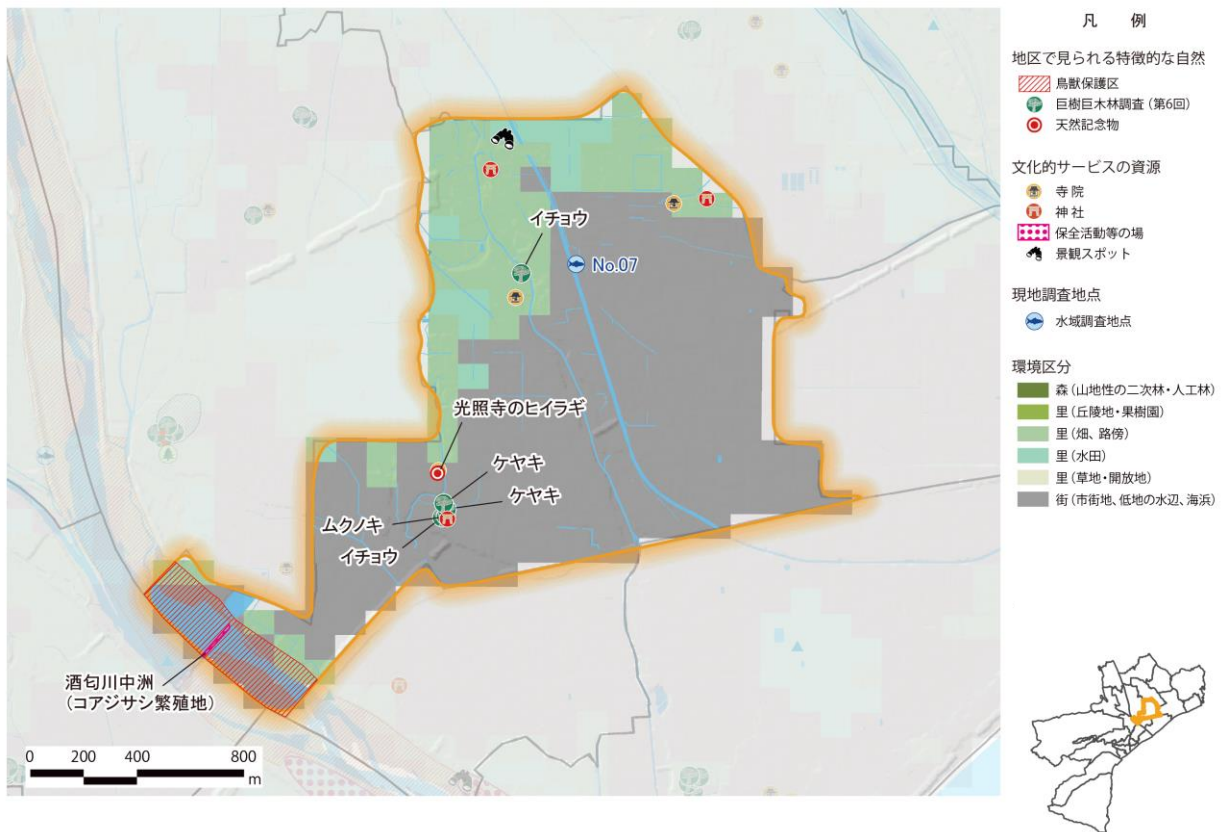
※出典：第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書（環境省自然環境局生物多様性センター、平成13年（2001年））

- **天然記念物**：「光照寺」のヒイラギは、天然記念物に指定されています。

天然記念物概要

| 名称 | 指定 | 指定年月日 | 所在地 | 概説 |
|----------|----|------------------------|-----|--|
| 光照寺のヒイラギ | 市 | 昭和45年(1970年) 12月15日 | 光照寺 | 光照寺境内稲荷社の鳥居脇にあり、幹囲りが3m近い市内最大の古木で、以前から名木として知られている。光照寺は、元東照寺という廃寺の跡に建てられた寺だが、東照寺の頃から現在の場所に稲荷社があり、この木がその頃から神木として大切に保護されてきた。 |

※出典：小田原市 HP「天然記念物」をもとに作成 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/property/cultural/natural/>



下府中地区の自然環境マップ

⁷ 巨樹・巨木林調査：巨樹・巨木林は、わが国の森林・樹木の象徴的存在であり、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、地域のシンボルとして人々の心のよりどころとなるなど、保全すべき自然として重要である、として、その全国的な実態を把握することを目的に実施されている調査